

No.77 A WORD FROM ANOTHER WORLD



Second Language Learning Natalie Edmondson

Learning a new language is hard, but it is important. This is because a language is more than just words and grammar rules; it is the culture and history of a region. Some of my favourite quotes are about this: 'To have another language is to possess a second soul' (Charlemagne) or 'The limits of my language are the limits of my world' (Ludwig Wittgenstein).

I can communicate to some degree in three languages. I grew up with English at home and spoke French at school, then in university I started studying Japanese. For Christmas 2016, I travelled to France with another ALT. She said that she didn't need to be next to me to know what language I was speaking. My gestures and body language changed depending on if I was speaking English, French or Japanese. This is because speaking another language is more than saying the same words with different sounds. The nuances of the other language force us to think of situations in a different way.

Our language shows our history. When you invite someone into your house, you say 「上がってください」 because Japanese houses have a step at the genkan. This needs to be explained to people who come from countries without this step. Learning one simple phrase in Japanese teaches people about Japanese history and architecture. It shows how environment can shape the way we talk to each other.

By learning to communicate your meaning in another language, you learn to look at your own language in a different way. This lesson stays with you even if you forget the grammar of the other language. This is why the act of learning is so important. 'You can never understand one language until you understand at least two' (Geoffrey Willams).

【ちよつと豆知識】宮地晶子

ドイツ・カール大帝（文中Charlemagneはフランス語読みでシャルルマーニュ、英語でCharles I = チャールズ大帝とも表記）は、ゲルマン民族を統一して「ヨーロッパの父」と言われた人。トランプカードのハートのキングのモチーフになった人だそうです。ウィトゲンシュタインはオーストリア出身のフランス哲学者。ジェフリー・ウィリアムズはNASA（アメリカ航空宇宙局）の宇宙飛行士で、宇宙旅行を3回した人です。トランプカードのキング、ハート、スペードがそれぞれ違う王様をモデルにしているなんて知りませんでした。

第二外国語を習得すること ナタリー・エドモンソン

新しい言語を習得するのは大変だけど、大切なことです。というのも、言語には、ただの言葉や文法以上のものがあるから。それは文化でありその地域の歴史。好きな引用に「もう一つ言語を所有することは、第二の魂を所有すること」(カール大帝)や「私の言語の限界が私の世界の限界だ」(ウィトゲンシュタイン)があります。

私は3カ国語である程度の会話ができます。家庭では英語、学校では仏語を話しました。その後大学で日本語を学び始めました。2016年のクリスマス、英語指導助手仲間とフランスへ旅しました。その友人は、遠くからでも私が何語を話しているか分かる、話す言語によって身振り手振りが変わるから、と言いました。別の言語を話すことは、言葉を違う音で発する以上のことです。言語のニュアンスの違いから、状況違った

見方で捉えざるをえなくなります。

言語は歴史を示します。家に人を招いたら、日本では「上がってください」と言いますが、それは玄関に段があるから。玄関に段のない国から来た人には、説明する必要があります。たった1つの簡単なフレーズを学ぶことで、日本史や建築についても学べるのです。いかに環境が話し方を形作ってきたかが分かります。

別の言語で意思伝達する方法を学ぶことで、自分の言葉を違った目で見られるようになります。そしてそこから学んだことは、たとえその外国語の文法を忘れても、自分の元に残ります。だからこそ学ぶという行為が大切なのです。「少なくとも2つの言語を理解するまで、1つの言語を理解することはない」(ジェフリー・ウィリアムズ)。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第147回

2カ国語を話せる人は

今回のナタリーさんの引用を調べていて、こんなを見つけました。「A man who knows two languages is worth two men.」2つの言語を知っている人は、2人分の価値がある」。フランスのことわざだそうです。でも日本の英語業界は、未だにネイティブ信仰花盛り。先日NHKのドキュメント72時間という番組を見ました。一カ所にカメラを構え、まる3日間その場の人

間模様を撮る。地味だけど非常に面白い番組です(金曜日午後10時50分から)。タイトルは「英会話教室でシーユーアゲイン」。舞台は大阪梅田のビル。小さく区切ったスペースがいっぱい。ここで指名した講師と自由に会話する、というもの。講師はいろんな国の人達。40分間5千円。「2週間後に海外赴任する」という人の授業風景も映りました。この方は言葉が出なくて、ずっとうなっていました。一方、講師はただただニコニコ。海外に進出する企業が今や7万社を越えるというから、需要は多いでしょうね。現役の高校の英語教師もいました。月に5万円かけているそうです!! お金を払って満足してしまっていないでしょうね。対費用効果は? カウンセリングしてあげたい、と痛切に思いました。そう、初期の英語教育には先のことわざが有効です。母国語と外国語ができて、かつ教え方を知っている人。そういう人に習った方がいい。できるようになった実体験がありますからね。